

冬期夕暮れ時の足場通路部照明工夫について

工 事 名 R6 上沼道 米岡第一高架橋
下部その5外工事
工事場所 新潟県上越市鶴町地先
会 社 名 株式会社 大島組
発 表 者 村山 和衛

1 はじめに

当工事は上越魚沼地域振興快速道路の一部で鶴町第二跨道橋 A2 橋台と米岡第一高架橋の P4 橋脚を製作する構造物がメインとなる工事である。
構造物工事を行う上で欠かすことのできない足場で、実践した安全向上対策についての取り組み内容を記述する。

2 概要

工 期：令和7年4月1日～令和8年3月6日
工事内容：道路土工1式、橋台躯体工1式、場所打杭工φ1500 L=51.0m N=9本、
橋脚工（T型橋脚）1式、仮設工1式

3 経緯

橋台工事の施工を10月から開始して11月には日暮れが早くなり、天候が悪い日は午後4時を過ぎると投光器での照度確保を必要とする日が増えてきた。橋台施工時は終始、足場を設置しており、暗くなると小さい段差や隙間でも転倒する危険があり（写真1）、照明が設置してある足場側（写真2）では夕暮れ時も安全に歩行ができるが、照明がとどかない側の足場歩行通路は暗くて歩きづらさを感じた。照度が足りない事の危険を回避しなければ事故につながる！そう不安に思った。



写真1 天候が悪い夕方の足場通路

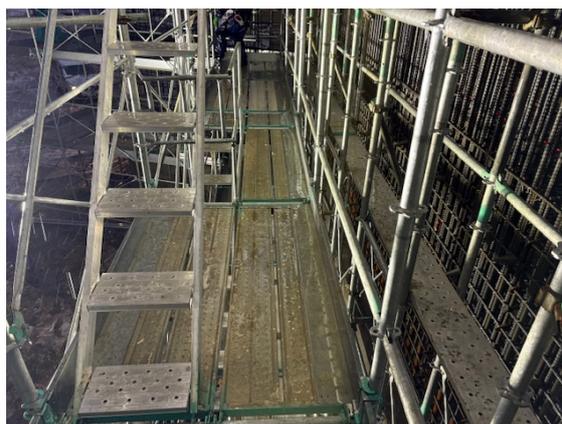


写真2 照明設置側の足場

当然、投光器の照明がとどかない側にも投光器を設置すれば照度は保てるが、橋台正面側には市道が通っており、投光器の向きによっては車輛運転手への妨害にもなりうると考え、投光器とは別の足元照明を考えた。

通勤の帰り道を車で運転中に、ある店先のイルミネーションがとても明るく、店先ばかりでなく、店先の道路まで明るく照らしていたのを見つけ、『これなら市道を通る車に影響を与えないで明るく足場歩行通路を照らせるのでは？』と思い、職長・作業員へ考えを伝えて、まずは足場へ店先と同じような電球（イルミネーション）を設置してみようと意見がまとまった。

4 方法

設置する電球は作業の支障になりうる独立タイプの電球ではなく、風雨にさらされても破損や感電しない防水型の連続したビニールチューブに電球が覆われている物（写真3）を数ある中から選定した。



写真3 選定した電球（イルミネーション）

照明となるイルミネーションの取付け位置は、作業員と現地で目線や作業に支障がならず足元を確実に照らせる位置を検討して、足場内の外側幅木天端部分に取付けを行った。

5 結果

電球（イルミネーション）のスイッチを入れると、今まで薄暗かった足場は明るく足元だけでなく歩行スペース全体が照らされて安全に歩行することが可能になった。（写真4）想定外ではあるが足場外部に設置してあった『上越三和道路をつくっています』の一般者への工事PR看板も同時に照らされ、夕暮れには暗かった道路沿いの橋台全体が、ほのかな明かりに包まれ幻想的なイメージにもなった。（写真5）

夕方、現場前の道路をウォーキングしている婦人からも『この道路には歩道も無く、街灯も少ない場所が工事で明るくなった事で明るく歩きやすい』と喜んでいただく事もできた。足場内で作業する人達からは『歩行通路の明示にしては明るく、小さな段差も見つけやすい』と好評だった。

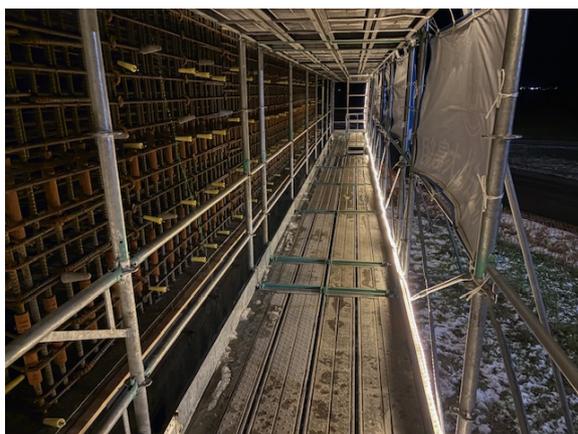


写真4 電球設置・点灯後の足場作業通路



写真5 橋台全体が照らされた全景

6 まとめ

この電球（イルミネーション）を用いて足場上の安全が確保でき、作業員が快適に時間の無駄なく夕暮れ時も作業や歩行ができる環境整備ができた。

一つの工夫で満足することなく、現場全体の安全も模索しながら現場管理を行いたい。足場を用いての作業は毎年、事故件数の上位になるほど危険が伴う作業なので、小さな危険も早めの対処で安全・無事故な現場作業環境づくりを継続していきたい。